

3.2 角運動量

質量 m の質点が速度 v で動いているときの運動量は $p = mv$

で定義され、原点と質点の間の距離を r として、原点から見た

角運動量ベクトル L は $L = r \times p = r \times mv$ で定義される。

ここで、 $L = r \times p$ について、 L を t で微分すると

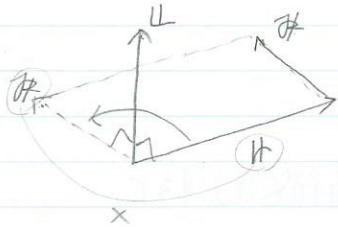
$$\frac{dL}{dt} = \frac{dr}{dt} \times p + r \times \frac{dp}{dt} = \frac{dr}{dt} \times p + r \times \frac{d(mv)}{dt} = \frac{dr}{dt} \times p + r \times ma$$

$$= \underbrace{\frac{dr}{dt} \times p}_0 + r \times F = r \times F \quad (\because \frac{dr}{dt} = v, p = mv \text{ で } v \perp mv)$$

$$= N \quad (\text{トルク}) \quad \text{と定義する。}$$

L の E - x 軸

② $L = r \times p$ のイメージ図



また、種々の計算により、このときの面積速度は $\frac{|L|}{2m}$ で表される。

ケプラーの法則により、面積速度は一定なので $\frac{dL}{dt} = 0$

$$\Leftrightarrow |L| = \text{const} \quad \text{よって } \frac{dL}{dt} = 0 \quad \text{また } \frac{dL}{dt} = N \text{ あり}$$

$N = 0$ つまり力の E - x 軸がないので、太陽が惑星に及ぼす

力は保存力である。